

2年情報処理

臨時休業中の課題

ビジネス文書検定2級問題(筆記:ことばの知識)

* 最初の授業時に提出すること

出席番号：

氏 名：

1 漢字の読み (頻出語)

あ行

鰯	あじ
網戸	あみど
蟻	あり
椅子	いす
苺	いちご
委任	いにん
猪	いのしし
依頼	いらい
鰯	いわし
引率	いんそつ
嘘	うそ
鰻	うなぎ
運賃	うんちん
運搬	うんぱん
海老	えび
延滞	えんたい
甥	おい
屋上	おくじょう
御中	おんちゅう

か行

蛾	が
該当	がいとう
回覧	かいらん
垣根	かきね
各位	かくい
型番	かたばん
鰹	かつお
合併	がっぺい
活躍	かつやく
蟹	かに
南瓜	かぼちゃ
粥	かゆ
唐揚	からあげ
簡潔	かんけつ
感觸	かんしょく
勘違い	かんちがい
漢方	かんぼう

肝要	かんよう
簡略	かんりやく
寒冷	かんれい
還曆	かんれき
起案	きあん
企画	きかく
貴社	きしゃ
机上	きじょう
喫茶	きっさ
急騰	きゅうとう
胡瓜	きゅうり
餃子	ぎょうざ
恐縮	きょうしゆく
業務	ぎょうむ
距離	きより
緊急	きんきゅう
謹啓	きんけい
金品	きんぴん
苦情	くじょう
蜘蛛	くも
景気	けいき
掲載	けいさい
経費	けいひ
契約	けいやく
外科	げか
激励	げきれい
決裁	けっさい
月報	げっぽう
下落	げらく
懸案	けんあん
玄関	げんかん
嚴重	げんじゅう
健勝	けんしょう
検討	けんとう
玄米	げんまい
鯉	こい
合意	ごうい
光榮	こうえい
航空	こうくう
交渉	こうしょう

購入	こうにゅう
効率	こうりつ
考慮	こうりょ
顧客	こきゃく
懇意	こんい
懇切	こんせつ
困難	こんなん

さ行

財政	ざいせい
催促	さいそく
歳晚	さいばん
歳末	さいまつ
財務	ざいむ
査収	さしゅう
早急	さっきゅう
刷新	さっしん
鯖	さば
鮫	さめ
残高	ざんだか
賛否	さんび
秋刀魚	さんま
椎茸	しいたけ
支援	しえん
資格	しかく
至急	しきゅう
事項	じこう
施設	しせつ
自治	じち
実施	じっし
実績	じっせき
自負	じふ
始末	しまつ
自慢	じまん
謝罪	しゃざい
祝儀	しゅうぎ
祝賀	しゅうが
出荷	しゅつか
取得	しゅとく
受領	じゅりょう

循環	じゅんかん
生姜	しょうが
状況	じょうきょう
詳細	しょうさい
障子	しょうじ
小社	しょうしゃ
昇進	しょうしん
情勢	じょうせい
状態	じょうたい
承諾	しょうだく
笑納	しょうのう
消耗	しょうもう
醤油	しょうゆ
処置	しょち
庶務	しょむ
新規	しんき
審議	しんぎ
申請	しんせい
新装	しんそう
腎臓	じんぞう
迅速	じんそく
進退	しんたい
慎重	しんちょう
推移	すいひ
西瓜	すいか
寿司・鮓	すし
雀	すずめ
図表	ずひょう
請求	せいきゅう
清祥	せいしょう
背筋	せすじ
節減	せつげん
蟬	せみ
善処	ぜんしょ
煎餅	せんべい
先方	せんぽう
粗悪	そあく
創業	そうぎょう
双肩	そうけん
掃除	そうじ

雑炊 ぞうすい
 草々 そうそう
 促進 そくしん
 粗品 そしな
 その旨 そのむね
 蕎麦 そば
 損益 せんえき
 損失 せんしつ

●た 行

鯛 たい
 貸借 たいしゃく
 鷹 たか
 卓越 たくえつ
 筍 たけのこ
 狸 たぬき
 打撲 だぼく
 玉葱 たまねぎ
 団子 だんご
 誕生 たんじょう
 担当 たんとう
 談判 だんぱん
 着手 ちゃくしゅ
 着工 ちゃっこう
 蝶 ちょう
 調査 ちょうさ
 調整 ちょうせい
 帳簿 ちょうぼ
 追伸 ついしん
 通達 つうたつ
 都合 つごう
 都度 つど
 提携 ていけい
 訂正 ていせい
 丁寧 ていねい

適宜 てきぎ
 徹底 てってい
 伝言 でんごん
 天井 てんじょう
 伝票 でんぴょう
 添付 てんぷ
 唐辛子 とうがらし
 統計 とうけい
 豆腐 とうふ
 同封 どうふう
 当方 とうほう
 得意 とくい
 特許 とっきょ

●な 行

内科 ないか
 茄子 なす
 賑やか にぎやか
 日報 にっぽう
 鼠 ねずみ
 狙う ねらう
 捻挫 ねんざ
 納期 のうき
 納品 のうひん
 能率 のうりつ
 海苔 のり

●は 行

把握 はあく
 廃棄 はいき
 拝啓 はいけい
 買取 ばいしゅう
 配達 はいたつ
 拝復 はいふく
 配慮 はいりょ

派遣 はけん
 破損 はそん
 発展 はってん
 鳩 はと
 派閥 はばつ
 春雨 はるさめ
 繁榮 はんえい
 反省 はんせい
 販売 はんばい
 日頃 ひごろ
 日歩 ひぶ
 紐 ひも
 表彰 ひょうしょう
 表題 ひょうだい
 付記 ふき
 普及 ふきゅう
 部署 ぶしょ
 襖 ふすま
 物価 ぶつか
 復旧 ふっきゅう
 復興 ふっこう
 振込 ふりこみ
 分割 ぶんかつ
 分析 ぶんせき
 弊社 へいしゃ
 別記 べっき
 返却 へんきやく
 変更 へんこう
 弁償 べんしょう
 変動 へんどう
 返品 へんぴん
 帽子 ぼうし
 保持 ほじ
 保存 ほぞん
 本来 ほんらい

●ま 行

鮪 まぐろ
 抹茶 まっちゃ
 眉間 みけん
 味噌 みそ
 未滿 みまん
 姪 めい
 迷惑 めいわく
 面識 めんしき
 面倒 めんどう
 喪中 もちゅう

●や 行

有効 ゆうこう
 柚子 ゆず
 茹でる ゆでる
 容易 ようい
 要旨 ようし
 容赦 ようしゃ
 要請 ようせい
 腰痛 ようつう

●ら 行

落成 らくせい
 利益 りえき
 利潤 りじゅん
 立案 りつあん
 略儀 りやくぎ
 略式 りやくしき
 領収 りょうしゅう
 輪番 りんばん
 肋骨 ろっこつ

2 三字熟語

青写真	あおじゃしん	試金石	しきんせき	一筋縄	ひとすじなわ
居丈高	いたけだか	嗜好品	しこうひん	檜舞台	ひのきぶたい
一目散	いちもくさん	集大成	しゅうたいせい	披露宴	ひろうえん
一家言	いっかげん	松竹梅	しょうちくばい	風物詩	ふうぶつし
一辺倒	いっぺんとう	常套句	じょうとうく	不得手	ふえて
井戸端	いどばた	上棟式	じょうとうしき	不気味	ぶきみ
違和感	いわかん	正念場	しょうねんば	袋小路	ふくろこうじ
内弁慶	うちべんけい	処方箋	しょうほうせん	不思議	ふしぎ
有頂天	うちょうてん	蜃気楼	しんきろう	不条理	ふじょうり
絵空事	えそらごと	深呼吸	しんこきゅう	不世出	ふせいしゅつ
円熟味	えんじゅくみ	真骨頂	しんこつちよう	不退転	ふたいてん
往生際	おうじょうぎわ	世間体	せけんてい	不調法	ぶちょうほう
大袈裟	おおげさ	瀬戸際	せとぎわ	仏頂面	ぶつちようづら
大御所	おおごしょ	先駆者	せんくしゃ	筆無精	ふでぶしょう
大雑把	おおざっぱ	善後策	ぜんごさく	懐具合	ふところぐあい
河川敷	かせんしき	千秋楽	せんしゅうらく	不如意	ふによい
過渡期	かとき	選択肢	せんたくし	不文律	ふぶんりつ
歌舞伎	かぶき	千里眼	せんりがん	雰囲気	ふんいき
間一髪	かんいっぱつ	大黒柱	だいこくばしら	分相応	ぶんそうおう
看板娘	かんばんむすめ	太鼓判	たいこばん	真面目	まじめ
感無量	かんむりょう	醜翻味	だいがみ	摩天楼	まてんろう
几帳面	きちょうめん	大丈夫	だいじょうぶ	愛弟子	まなでし
金一封	きんいっぷう	高飛車	たかびしゃ	身支度	みじたく
金字塔	きんじとう	天王山	てんのうざん	未曾有	みぞう
下馬評	げばひょう	当事者	とうじしゃ	明後日	みょうごにち
紅一点	こういってん	登竜門	とうりゅうもん	無一文	むいちもん
小細工	こざいく	度外視	どがいし	無作為	むさくい
御尊父	ごそんぷ	独壇場	どくだんじょう	無邪気	むじゃき
御破算	ごはさん	土壇場	どたんば	無尽蔵	むじんぞう
御母堂	ごぼどう	生意気	なまいき	無造作	むぞうさ
子煩悩	こぼんのう	生半可	なまはんか	無頓着	むとんちゃく
御用達	ごようたし	並大抵	なみたいてい	目論見	もくろみ
御利益	ごりやく	端境期	はざかいき	門外漢	もんがいかん
金輪際	こんりんざい	裸一貫	はだかいっかん	有意義	ゆういぎ
最高潮	さいこうちょう	破天荒	はてんこう	有識者	ゆうしきしゃ
殺風景	さっぼうけい	繁華街	はんかがい	乱高下	らんこうげ
茶飯事	さはんじ	半人前	はんになまえ	理不尽	りふじん
三文判	さんもんばん	他人事	ひとごと	老婆心	ろうばしん

3 同訓異字

●あ 行

あう	合う 会う 遭う	意見が－ 応接室で－ にわか雨に－	いる	居る 射る 鑄る 入る 要る	屋上に－ 的を－ 金の仏像を－ 気に－ 人手が－
あける	明ける 空ける 開ける	夜が－ 家を－ 窓を－	うえる	飢える 植える	食べ物がなく－ 木を－
あげる	挙げる 上げる 揚げる	例を－ 価格を－ 天ぶらを－	うける	受ける 請ける	依頼を－ 工事を－
あし	足 脚	－の裏 机の－	うつ	撃つ 打つ 討つ	鉄砲を－ くぎを－ あだを－
あたい	価 値	商品の－ 計測の－	うつす	移す 映す 写す	住まいを－ 鏡に－ 書き－
あたたかい	温かい 暖かい	－人柄 今日は－	うむ	産む 生む	卵を－ 新記録を－
あたり	当たり 辺り	大－ －を見回す	うれる	熟れる 売れる	果物が－ 名が－
あつい	厚い 暑い 熱い	－壁 －夏 －湯	おう	追う 負う	足取りを－ 傷を－
あてる	充てる 当てる	建築費に－ 胸に手を－	おかす	侵す 犯す 冒す	権利を－ 過ちを－ 危険を－
あと	後 跡	－の祭り 足－	おくる	送る 贈る	卒業生を－会 お祝いの品を－
あぶら	脂 油	－がのる年頃 ごま－	おくれる	遅れる 後れる	飛行機に乗り－ 先頭集団から－
あやまる	誤る 謝る	操作を－ 落ち度を－	おこる	起こる 怒る 興る	不思議な出来事が－ 顔を赤くして－ IT産業が－
あらい	荒い 洗い 粗い	波が－ －物をする 網の目が－	おさえる	押さえる 抑える	手で－ 物価の上昇を－
あらわす	現す 著す 表す	姿を－ 書物を－ 言葉に－	おさめる	収める 治める 修める 納める	成功を－ 領地を－ 学問を－ 税を－
ある	有る 在る	責任が－ 校長の職に－	おす	押す 推す	ベルを－ 会長に－
あわせる	合わせる 併せる	手を－ 二つの会社を－	おどる	躍る 踊る	胸が－ ダンスを－
いたむ	傷む 痛む 悼む	家が－ 手足が－ 死を－	おもて	表 面	はがきの－と裏 －を伏せる
			おる	折る 織る	小枝を－ はたを－

おろす 下ろす 枝を－
降ろす 乗客を－

●か 行

かえす 帰す 自宅へ－
返す もとの持ち主に－
かえりみる 顧みる 過去を－
省みる 自らを－
かえる 帰る 自宅へ－
返る 我に－
変える 形を－
替える 仕事を－
代える ピッチャーを－
換える 円をドルに－
かく 欠く 配慮を－
書く 日記を－
かけ 陰 －ながら応援する
影 －も形もない
かた 型 血液－を調べる
形 ハート－のアクセサリー
肩 －の力を抜く
片 －思い
方 作り－を習う
かたい 堅い －材木
固い 団結が－
硬い －表情
かど 角 曲がり－
門 －松を飾る
かる 刈る 芝を－
駆る 馬を－
狩る 狸を－
かわ 革 －の靴
皮 －をむく
かわく 渴く のどが－
乾く 空気が－
きく 効く 薬が－
聴く ラジオを－
聞く 物音を－
利く 学割が－
きる 切る 髪を－
着る 制服を－
きわめる 究める 学問を－
極める 山頂を－
窮める 真理を－
くる 繰る ページを－
来る 人が－

こえる 越える 山を－
超える 人間の能力を－
肥える 土地が－
こす 越す 峠を－
超す 四時間を－大接戦

●さ 行

さがす 捜す うちの中を－
探す 落とし物を－
さく 割く 時間を－
裂く 布を－
咲く 花が－
さける 避ける 車を－
裂ける ズボンが－
さげる 下げる 値段を－
提げる 手に－
さす 差す 傘を－
刺す かんざしを－
指す 指で－
挿す 花瓶に花を－
さます 覚ます 目を－
冷ます お湯を－
さわる 障る 気に－
触る 手で－
しお 塩 －をかける
潮 満ち－
しずめる 静める 鳴りを－
鎮める 反乱を－
沈める 船を－
しぼる 絞る 手ぬぐいを－
搾る 乳を－
しめる 締める 帯を－
湿る 雨で－
占める 半分を－
閉める ふたを－
すすめる 勧める 入会を－
進める 時計の針を－
薦める 候補者として－
すみ 隅 部屋の片－
炭 －火で焼く
墨 習字の－
すむ 住む 大都会に－
済む 用事が－
澄む 心が－
する 擦る マッチ棒を－
刷る 版画を－

せめる	攻める	敵陣を－
	責める	相手の非を－
そう	沿う	方針に－
	添う	期待に－
そなえる	供える	だんごを－
	備える	監視カメラを－

●た 行

たえる	堪える	任に－
	絶える	人通りが－
	耐える	痛みに－
たけ	丈	身の－
	竹	－が生える
たずねる	尋ねる	道を－
	訪ねる	実家を－
たたかう	戦う	優勝をかけて－
	闘う	裁判で－
たつ	建つ	家が－
	裁つ	生地を－
	絶つ	国交を－
	断つ	退路を－
	立つ	席を－
たま	玉	－にきず
	球	ピッチャーの投げた－
	弾	ピストルの－
たより	便り	－がある
	頼り	－になる
つかう	遣う	気を－
	使う	機械を－
つく	就く	床に－
	着く	席に－
	付く	身に－
つぐ	継ぐ	家業を－
	接ぐ	木を－
	次ぐ	大臣に－ポスト
つくる	作る	米を－
	造る	高速道路を－
つけ	付け	かかり－の医者
	漬け	－物
つとめる	勤める	会社に－
	努める	解決に－
	務める	部長を－
つむ	積む	経験を－
	摘む	お茶を－
とうとい	尊い	生命は－
	貴い	－身分

とく	解く	結び目を－
	説く	教えを－
	溶く	粉末を水で－
ととのえる	整える	身だしなみを－
	調える	必要な物を－
とめる	止める	息を－
	泊める	来客を家に－
	留める	ボタンを－
とる	採る	決を－
	撮る	写真を－
	執る	事務を－
	取る	手に－
	捕る	獲物を－

●な 行

なおす	直す	誤りを－
	治す	風邪を－
なか	中	箱の－
	仲	－が良い
ながい	長い	髪が－
	永い	－別れ
なく	泣く	悔しくて－
	鳴く	小鳥が－
ならう	習う	ピアノを－
	倣う	前例に－
ならす	慣らす	肩を－
	鳴らす	鐘を－
なる	成る	水素と酸素から－
	鳴る	鐘が－
にる	似る	祖母に－
	煮る	大根を－
ねる	寝る	早く－
	練る	作戦を－
のせる	載せる	名簿に名前を－
	乗せる	車に人を－
のぞむ	望む	ヒマラヤを－
	臨む	試合に－
のばす	延ばす	時間を－
	伸ばす	背筋を－
のぼる	昇る	日が－
	上る	話題に－
	登る	山に－

●は 行

はえる	映える	朝日に－
	生える	ひげが－

はかる	計る	時間を-
	測る	面積を-
	諮る	委員会に-
	図る	合理化を-
	量る	体重を-
はく	掃く	廊下を-
	吐く	毒舌を-
	履く	靴を-
はし	橋	-を渡る
	端	道路の-を歩く
はじめ	始め	-と終わり
	初め	-ての作業
はな	花	-が咲く
	華	-やかな服装
	鼻	目と-の先
はなす	放す	鳥を-
	離す	目を-
	話す	英語で-
はやい	早い	時間が-
	速い	テンポが-
ひ	火	-が燃える
	灯	-がともる
ひく	引く	綱を-
	弾く	ピアノを-
ふえる	殖える	子株が-
	増える	参加者が-
ふく	吹く	風が-
	噴く	クジラが汐を-
ふける	更ける	夜が-
	老ける	急に-
ふる	降る	雨が-
	振る	ラケットを-
ふるう	振るう	料理に腕を-
	奮う	勇気を-
へる	経る	時を-
	減る	人口が-
ほる	掘る	芋を-
	彫る	仏像を-

●ま 行

まじる	交じる	白髪が-
	混じる	異物が-

まち	町	-役場
	街	若者の-
まわり	回り	身の-
	周り	池の-
みる	見る	景色を-
	診る	患者を-
むね	胸	-のレントゲン
	旨	訪問する-を伝える
	棟	隣の-
もと	元	ガスの-栓
	下	法の-に平等
	基	資料を-にする
	本	-を正す
もの	者	若-
	物	忘れ-

●や 行

やさしい	易しい	-問題
	優しい	あの人は-
やぶる	破る	紙を-
	敗る	強豪校を-
やわらかい	柔らかい	体が-
	軟らかい	-肉
よい	善い	-行い
	良い	品質が-
よむ	詠む	和歌を-
	読む	本を-
よる	因る	本人の不注意に-
	寄る	本屋に立ち-

●わ 行

わかれる	別れる	駅で友人と-
	分かれる	道が二つに-
わざ	技	柔道の-
	業	至難の-
わずらう	患う	胸を-
	煩う	思い-

4 慣用句・ことわざ

●あ 行

愛あい想そが尽つきる
 愛あい想そうを尽つかす
 間あいだに立たつ
 間あいだに入はいる
 相あいづち槌ちを打うつつ
 合あいま間まを縫ぬう
 阿あうん吽んの呼よ吸そく
 煽あおりくを食くう
 垢あか拔はける
 飽あきが来来る
 あぐらをかく
 揚あげて足あしを取とる
 顎あごを出だす
 顎あごでつかう
 足あしが出る
 足あしが早い
 足あし並なみがそろう
 足あし場ばを固かためる
 足あしを奪うわれる
 足あしを取とられる
 足あしを伸のばす
 足あしを運はぶ
 足あしを棒ぼうにする
 頭あたま打ぶちになる
 頭あたまが上あがらない
 頭あたまが痛いたい
 頭あたまが堅かたい
 頭あたまが下さがる
 頭あたまが低ひくい
 頭あたまを痛いためる
 頭あたまを抱かかえる
 頭あたまを搔かく
 頭あたまを下さげる
 頭あたまを絞しぼる
 頭あたまをひねる
 頭あたまをもたげる

当あたりがいい
 当あたりをつける
 後あと押おしをする
 後あと釜かまに据すえる
 後あと釜かまに座まる
 後あとの祭まつり
 穴あながあく
 穴あなが埋うまる
 穴あなを埋うめる
 脂あぶらが乗のる
 油あぶらを売うる
 網あみの目めをくぐる
 荒あわ波なみにもまれる
 泡あわを食くう
 暗あん礁しやうに乗り上げる
 案あんに相そう違いして
 息いきが合う
 息いきが切きれる
 息いきを抜ひく
 意い気きが揚あがる
 意い気きに燃もえる
 威い儀ぎを正ただす
 意い気き地ぢがない
 異い彩さいを放はなつ
 意い地ぢを張はる
 板いに付つく
 一いも二にもなく
 一いち翼よくを担になう
 一いっ計けいを案あじる
 一いっ考こうを要あする
 一いっ刻こくを争あう
 一いっ矢しを報むくいる
 一いっ石せきを投なじる
 一いっ途とをたどる
 意いに介かさない
 意いにかなう
 意いを決きする
 意いを尽つくす

意いを用よいる
 異いを唱となえる
 いのい一ひ番ばん
 意い表ひょうをつつく
 色いろがあせる
 色いろを付つける
 言いわずと知しれた
 言いわぬが花はな
 上うを下したへの
 浮うき彫ぼりにする
 受うけがいい
 後うろ髪かみを引ひかれる
 疑ういを挟はさむ
 腕うでが上あがる
 腕うでが立たつ
 腕うでが鳴なる
 腕うでによりをかける
 腕うでを振あるう
 腕うでを磨みがく
 打うてば響ひびく
 鵜うのの呑のみにする
 馬うまが合う
 有う無むを言いわせず
 裏うら表おもてがない
 裏うら目めに出る
 雲うん泥でいの差さ
 英えい氣きを養やう
 悦えつに入る
 襟えりを正ただす
 縁えん起ぎを担かつぐ
 お伺うかがいを立たてる
 大おお台だいに乗る
 大おお目めに見る
 お株うけを奪う
 後うれを取とる
 押おしが利りく
 押おしが強つよい
 押おしも押おされぬ

お茶ちやを濁にごす
 音おと沙さ汰たがない
 思おもいも寄よらない
 重おもきを置おく
 重おもきをなす
 表おもてに立たつ
 重おも荷ねを下くだろす
 及および腰こしになる
 折おり合あいが付つく
 尾おを引ひく
 折おり紙かみをつつける
 音おん頭どを取とる
 恩おんに着る

●か 行

顔かほが売うれる
 顔かほが利りく
 顔かほが立たつ
 顔かほが広ひろい
 顔かほから火かが出る
 顔かほを合あわせる
 顔かほを出だす
 顔かほをつつなぐ
 核か心しんを突つく
 影かげを潜ひそめる
 笠かさに着る
 舵かじを取とる
 固かた唾ずを吞のむ
 肩かたで風かぜを切きる
 肩かたの荷にが下くだりる
 肩かたを入れる
 肩かたを落おとす
 肩かたを貸かす
 肩かたをすほめる
 肩かたを並ならべる
 肩かたを持つ
 片かたを付つける
 片かたが付つく

勝手が違う
勝手が悪い
活路を見いだす
角が立つ
角が取れる
金を食う
株が上がる
かぶとを脱ぐ
壁に突き当たる
我を折る
我を張る
間隙を縫う
勘定に入れる
歓心を買う
間髪を入れず
気合いが入る
気合いを入れる
気が合う
気が置けない
気が回る
気が休まる
犠牲を払う
機先を制する
機知に富む
機転が利く
軌道に乗る
気は心
肝が据わる
肝を冷やす
肝に銘じる
急場をしのぐ
窮余の一策
岐路に立つ
機を逸する
気を配る
気を許す
釘を刺す
苦言を呈する
口が堅い

口が減らない
口に合う
口にする
口を切る
口を出す
口をついて出る
首を長くする
黒白をつける
群を抜く
芸が細かい
景気を付ける
計算に入れる
桁が違う
けりを付ける
光彩を放つ
強情を張る
公然の秘密
功成り名を遂げる
声が弾む
声を落とす
声をかける
呼吸が合う
心が通う
心が弾む
心に刻む
心を打つ
心を砕く
腰が低い
腰が抜ける
腰を入れる
腰を据える
事が運ぶ
事もなく
言葉を返す
言葉を濁す
小回りがきく
小耳に挟む
根を詰める

●さ 行

最後を飾る
幸先がいい
採算がとれる
先が見える
先を争う
匙を投げる
察しがつく
様になる
算段がつく
思案に暮れる
潮時を見る
歯牙にもかけない
姿勢を直す
舌が肥える
舌が回る
舌の根の乾かぬうち
舌を巻く
尻尾をつかむ
しのぎを削る
自腹を切る
しびれを切らす
始末をつける
示しがつかない
終止符を打つ
衆知を集める
趣向を凝らす
手腕を振るう
掌中に収める
焦点を絞る
食が進む
触手を伸ばす
初心に戻る
尻に火がつく
尻を叩く
時流に乗る
心血を注ぐ
人後に落ちない

寝食を忘れる
心臓が強い
真に迫る
筋が違う
筋を通す
雀の涙
図に乗る
隅に置けない
寸暇を惜しむ
精を出す
精が出る
席を外す
背に腹はかえられない

世話が焼ける
世話をかける
世話を焼く
背を向ける
先見の明
先手を打つ
先頭を切る
造詣が深い
造作もない
底を突く
そつがない
反りが合わない
算盤が合う
算盤をはじく

●た 行

太鼓判を押す
大事を取る
高が知れる
高みの見物
高をくくる
立て板に水
棚上げにする
棚に上げる
頼みの綱
駄目を押す

短気は損気

丹精をこめる

断を下す

端を発する

知恵を絞る

力になる

力を入れる

力を付ける

注文をつける

調子に乗る

月とすっぽん

壺を心得る

手が空く

手が込む

手塩にかける

手に汗を握る

手に余る

手に入れる

手にする

手につかない

手に乗る

手も足も出ない

手を入れる

手を打つ

手をこまねく

手を出す

手を尽くす

手を握る

手を広げる

手を焼く

峠を越す

時を移さず

時を得る

得心がいく

所を得る

途方に暮れる

途方もない

取りも直さず

度を越す

度が過ぎる

●な 行

長い目で見ると

名が売れる

波に乗る

名を成す

何の変哲もない

二の足を踏む

値が張る

猫の手も借りたい

猫も杓子も

寝耳に水

音を上げる

念を入れる

念を押す

●は 行

歯が立たない

歯に衣着せぬ

白紙に戻す

鼻が高い

鼻にかける

鼻を並べる

花を持たせる

話がつく

話をつける

話が弾む

腹をくくる

腹を割る

引き合いに出す

膝を打つ

膝を突き合わせる

膝を交える

額を集める

人手に渡る

瞳を凝らす

人目につく

人目を引く

火に油を注ぐ

日の出の勢い

日の目を見る

火花を散らす

火ぶたを切る

火を見るよりも明らか

百も承知

秒読みに入る

分がいい

蓋を開ける

筆が立つ

懐が暖かい

腑に落ちない

不評を買う

平行線をたどる

ベストを尽くす

弁が立つ

棒に振る

矛先を転じる

反故にする

菩提を弔う

歩調を合わせる

歩調が合う

没にする

仏の顔も三度

骨が折れる

骨を折る

骨身を惜しまず

骨身を削る

歩を進める

本腰を入れる

●ま 行

枚挙にいとまがない

間が悪い

幕が開く

幕を開ける

幕を引く

幕を閉じる

幕が下りる

勝るとも劣らぬ

的が外れる

的を射る

的を外す

的を絞る

まな板にのせる

眉をひそめる

磨きがかかる

磨きをかける

身が入る

右へ倣え

右に出る

微塵もない

水に流す

水の泡になる

水をあける

水があく

水を差す

水を向ける

身銭を切る

店を広げる

道が開ける

道を付ける

身に余る

身に付く

身になる

身を入れる

身を粉にする

身を投じる

耳が痛い

耳が早い

耳につく

耳に入れる

耳にする

耳を疑う

耳を貸す

耳を傾ける

耳を澄ます

脈がある
実を結ぶ
向むきになる
無むにする
胸が痛む
胸がすく
胸おさに納める
胸きどに刻む
胸を打つ
無理もない
明暗めいあんを分ける
目めが利く
目めが肥える
目めが覚める
目が高い
目が届く
目がない
目から火が出る
目と鼻の先
目に付く
目にと留まる
目も当てられない
目もくれない
目を疑う

目を奪われる
目をかける
目を皿にする
目を通す
目を光らす
目を引く
目を開く
目を見張る
目め先が利く
目め鼻が付く
目鼻を付ける
目安が付く
目安を付ける
芽めが出る
めどが付く
面と向かって
面めん目ぼくを施ほごす
目算もくざんを立てる
目算が立つ
持ち出しになる
元もとも子こもない
物ともせず
物にする
物になる

物の見事に
物を言う

●や 行

役者がそろう
躍やっ起きになって
山が見える
山場やまばを迎える
やむにやまれず
融通ゆうずうが利く
雄弁ゆうべんに物語る
夢を描く
夢を追う
夢たくを託す
夢を見る
要領がいい
要領を得ない
欲を言えば
横車よこぐるまを押す
装ようさういを新たにする
予断よだんを許さない
世よに聞こえる
世に出る
余念よねんがない

読みが深い
夜よを徹てっする

●ら 行

埒らちが明あかない
埒らちもない
理屈をこねる
レールを敷く
烈火れつのごとく
労ろうをとる
労を惜おしまない

●わ 行

我わが意いを得える
脇目わきめも振ふらず
渡わたりに船ふね
渡りをつける
笑いが止まらない
藁わらにもすすがる
割が悪い
割を食う
割り切れない
我われを忘れる
輪をかける

5-1 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () 該当する箇所に印をつけてください。
- ② () 私の父は鱈の味噌煮が大好きだ。
- ③ () 会員各位にお知らせいたします。
- ④ () これは壊れやすいので丁寧に扱ってください。
- ⑤ () 無駄な電気を消して、電力を節減しましょう。
- ⑥ () 新しい担任の先生が、新入生を引率した。

5-2 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () この件については大臣の善処を望みます。
- ② () 彼女はつまずいて捻挫した。
- ③ () 大手企業との提携により、業務の拡大を目指す。
- ④ () 御中は、郵便物などで、会社などの宛名の下に書き添える語のことです。
- ⑤ () やか) 週末の街はいつも賑やかだ。
- ⑥ () 会社が新体制になり、人事を刷新した。

5-3 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () この事業により、大きな利潤が期待できる。
- ② () 彼は、誰にでも優しく、懇切丁寧^に教えてくれる。
- ③ () 特許の申請をするため書類を作成した。
- ④ () 彼は割った窓ガラスを弁償した。
- ⑤ () 明日までに代金の振込をお願いします。
- ⑥ () 今回の災害では、多大な損失を被った。

5-4 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () 友人仲間で金銭を貸借する。
- ② () 送付した品を、ご笑納ください。
- ③ () 御清祥のこととお喜び申し上げます。
- ④ () 彼は、私の甥です。
- ⑤ () 彼女から返事を催促された。
- ⑥ () 彼は私の考えを、机上の空論だと言った。

5-5 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () 本社の財務分析を行う。
- ② () 彼女は胡瓜の浅漬けが大好きだ。
- ③ () 私はなによりも蕎麦が好物だ。
- ④ () 彼は本社から派遣された。
- ⑤ () 祖父は茄子の漬物が好物だ。
- ⑥ () 弟はふざけていて襖に穴を開けてしまった。

5-6 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () この案件について、部下から詳細な報告があった。
- ② () トラブルに対して、迅速な対応が必要である。
- ③ () 彼とは懇意にしているので、優しく対応してくれると思う。
- ④ () 補習が終わった人は、適宜帰ってもよいことになった。
- ⑤ () 論文の要旨をまとめる。
- ⑥ () 暑い夏には、冷やした西瓜が食べたくなる。

5-7 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () たまった新聞紙を紐で結んだ。
- ② () 海外の経済事情により、ガソリン価格が急騰した。
- ③ () パスタは茹でる加減が難しい。
- ④ () 販売を促進するのが我々の仕事だ。
- ⑤ () 私は毎日、業務日報を書いている。
- ⑥ () 先生から、もっと文章を簡潔にまとめるように指導された。

5-8 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () データを添付ファイルで送付した。
- ② () 補償問題について会社に談判する。
- ③ (その) お戻りになりましたら、その旨部長にお伝えください。
- ④ () 彼女はいつも眉間にしわを寄せている。
- ⑤ () 弊社とは、自分の会社をへりくだってという語のことです。
- ⑥ () 先生の処置が早かったので、順調に回復している。

5-9 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () 先生の承諾を得て、放課後、音楽室を使った。
- ② () 古い書類を廃棄した。
- ③ () 彼女の投書が、新聞に掲載された。
- ④ () いろいろな問題が生じたが、無事に文化祭を実施できた。
- ⑤ () 生姜をすりおろして冷ややっこの薬味にした。
- ⑥ () その場の状況を把握する必要がある。

5-10 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで（ ）の中に答えなさい。

- ① () 私の叔母は還暦を迎えた。
- ② () 彼は事故で肋骨を骨折した。
- ③ () 昨日から工事に着手しました。
- ④ () 蜘蛛は網を張り、虫を捕食する。
- ⑤ () 謹啓は、手紙の最初に用いる挨拶の言葉で、頭語の一つです。
- ⑥ () 嘘をつくると人から信頼されなくなる。

筆記6対策問題

6-1 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 生半火な気持ちで、進路を決定してはならない。 [ア. 可 イ. 家 ウ. 化]
 ② () 部長は、意丈高にものを言う。 [ア. 異 イ. 居]
 ③ () 彼女は、不製出の女優だ。 [ア. 性 イ. 正 ウ. 世]
 ④ () この問題への対処は、彼らの実力を問う私金石となる。 [ア. 資 イ. 試]

6-2 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼は褒められて、有超天になっている。 [ア. 頂 イ. 丁 ウ. 長]
 ② () 下馬票では、Aチームが優勝する。 [ア. 表 イ. 評]
 ③ () あの医者は、脳外科に関しては閤外漢である。 [ア. 紋 イ. 文 ウ. 門]
 ④ () あの人は、背戸際で頑張った。 [ア. 瀬 イ. 施]

6-3 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼は日本の伝統芸能に一家現を持っている。 [ア. 減 イ. 言 ウ. 厳]
 ② () コンサートの興奮は最高長に達した。 [ア. 潮 イ. 超]
 ③ () 弟は、友人とけんかして仏長面をしている。 [ア. 超 イ. 丁 ウ. 頂]
 ④ () その件に関しては、彼女に任せれば大丈部だ。 [ア. 夫 イ. 分]

6-4 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () こんな仕事は、今輪際ごめんだ。 [ア. 近 イ. 金 ウ. 根]
 ② () 彼女の腕前は、プロが太鼓番を捺すほどだ。 [ア. 判 イ. 版]
 ③ () そんな理婦人なことを言われても困る。 [ア. 不尽 イ. 夫人 ウ. 布陣]
 ④ () 不退点の決意で頑張ろう。 [ア. 典 イ. 転]

6-5 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼女とは初対面なのに意和感もなくうちとけた。 [ア. 異 イ. 居 ウ. 違]
 ② () 我々の選択志は、この二つしかない。 [ア. 肢 イ. 資]
 ③ () その件に関しては、私の目論未がはずれた。 [ア. 身 イ. 味 ウ. 見]
 ④ () あちらの方は、会長の御母同です。 [ア. 道 イ. 堂]

6-6 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () ここは、縁結びの御利約で知られている。 [ア. 益 イ. 役 ウ. 厄]
 ② () 冬の浜辺は、夏に比べて殺風系だった。 [ア. 形 イ. 景]
 ③ () 私は筆不生なので、つい義理を欠いてしまう。 [ア. 症 イ. 少 ウ. 精]
 ④ () 外出用の身自度をして出かけた。 [ア. 支 イ. 事]

6-7 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼女の母親は、子本悩んだ。 [ア. 盆 イ. 煩 ウ. 凡]
② () このような催しは、故郷では茶半事に行われている。 [ア. 飯 イ. 判]
③ () このプロジェクトについてのアイデアは、無尽像にある。 [ア. 増 イ. 造 ウ. 蔵]
④ () 彼の芸は、円塾味を増した。 [ア. 宿 イ. 熟]

6-8 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼は、時間を気帳面に守る人だ。 [ア. 貴 イ. 規 ウ. 几]
② () 今回の交渉は、小念場を迎えた。 [ア. 正 イ. 生]
③ () 彼女は破天頂な試みに成功した。 [ア. 更 イ. 荒 ウ. 候]
④ () 無理をせず、文相応な生活をするのが一番だ。 [ア. 分 イ. 聞]

6-9 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼はその作品で近代文学の金自塔を打ち立てた。 [ア. 事 イ. 字 ウ. 地]
② () コーヒーは、15世紀になって資好品として普及した。 [ア. 旨 イ. 嗜]
③ () 高速道路で、昧曾有の大事故が起こった。 [ア. 実 イ. 身 ウ. 未]
④ () その案は、土短場で取りやめた。 [ア. 壇 イ. 端]

6-10 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 歴史の科渡期には、いろいろな混乱が起きた。 [ア. 課 イ. 可 ウ. 過]
② () 私は、バッグの中に三紋判を携帯している。 [ア. 文 イ. 問]
③ () この分野は、彼女の独壇場だ。 [ア. 段 イ. 壇 ウ. 談]
④ () これは、業界の不聞律だ。 [ア. 文 イ. 分]

6-11 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 今までの約束を御波算にした。 [ア. 破 イ. 派 ウ. 端]
② () 彼女は、新天地で真骨丁を發揮した。 [ア. 長 イ. 頂]
③ () 今回の試合は、不如異な結果で終わった。 [ア. 位 イ. 居 ウ. 意]
④ () 彼は、採算を度外志した商法で成功した。 [ア. 視 イ. 資]

6-12 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 今朝は、環一髪でバスに間に合った。 [ア. 完 イ. 感 ウ. 間]
② () 祖父は世間停を気にする人だ。 [ア. 定 イ. 体]
③ () 調査の対象者は、無作委に選び出された。 [ア. 意 イ. 位 ウ. 為]
④ () 芥川賞は文壇の登竜文だと言われている。 [ア. 紋 イ. 門]

筆記7対策問題

7-1 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 寒い日には、あたたかい飲み物が欲しい。 [ア. 温かい イ. 暖かい]
 ② () 例をあげると分かりやすい。 [ア. 揚げる イ. 上げる ウ. 挙げる]
 ③ () 彼女は紙をやぶり捨てた。 [ア. 敗り イ. 破り]
 ④ () 教授は、たくさんの書物をあらわした。 [ア. 表し イ. 著し ウ. 現し]
 ⑤ () 万全を期して試合にのぞむ。 [ア. 臨む イ. 望む]
 ⑥ () 彼はこの土地の反乱をしずめた英雄だ。 [ア. 沈め イ. 鎮め ウ. 静め]

7-2 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 遠征の費用は、全員で負担をおうことにした。 [ア. 追う イ. 負う]
 ② () 時間をさいて医者に行った。 [ア. 咲い イ. 割い ウ. 裂い]
 ③ () その件に関しては、私にも責任がある。 [ア. 在る イ. 有る]
 ④ () 彼は、空に向かって鉄砲をうった。 [ア. 撃っ イ. 打っ ウ. 討っ]
 ⑤ () 今日はとても暑いので、のどがかわいて困る。 [ア. 渴い イ. 乾い]
 ⑥ () あと1時間で用事がすむと連絡がきた。 [ア. 澄む イ. 済む ウ. 住む]

7-3 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 入学のお祝いの品をおくる。 [ア. 贈る イ. 送る]
 ② () 彼は危険をおかしておぼれた人を救助した。 [ア. 犯し イ. 侵し ウ. 冒し]
 ③ () あの峠をこせば、もうすぐ目的地だ。 [ア. 越せ イ. 超せ]
 ④ () 物価の上昇をおさえるため、経済対策を示す。 [ア. 抑える イ. 押さえる]
 ⑤ () 皆様の期待にそうことができるように頑張ります。 [ア. 沿う イ. 添う]
 ⑥ () 大学で、サークルへの入会をすすめられた。 [ア. 進め イ. 薦め ウ. 勧め]

7-4 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 私たちは、彼女を生徒会長におした。 [ア. 押し イ. 推し]
 ② () 目的地はあつい壁で囲まれた建物の中だ。 [ア. 暑い イ. 熱い ウ. 厚い]
 ③ () 手ぬぐいをしぼり、汚れた足を拭いた。 [ア. 搾り イ. 絞り]
 ④ () チャイムが鳴ったので、席につく。 [ア. 付く イ. 着く ウ. 就く]
 ⑤ () やわらかい肉が大好きだ。 [ア. 軟らかい イ. 柔らかい]
 ⑥ () アメリカに留学して学問をおさめる。 [ア. 納める イ. 修める ウ. 収める]

7-5 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () あちらの女性は、とうとい身分の方だ。 [ア. 貴い イ. 尊い]
 ② () 彼は必死で靴紐の固い結び目をといた。 [ア. 溶い イ. 解い ウ. 説い]
 ③ () 旅行の準備に必要なものをととのえた。 [ア. 調べ イ. 整え]
 ④ () 真珠のペンダントを鏡にうつす。 [ア. 移す イ. 写す ウ. 映す]
 ⑤ () この仕事をこなすことは、至難のわざだ。 [ア. 技 イ. 業]
 ⑥ () 彼女は仕事をかえた。 [ア. 変え イ. 換え ウ. 替え]

7-6 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () スポーツ中継の放送時間を30分間のばす。 [ア. 伸ばす イ. 延ばす]
② () 彼は壇上に上がるとかたい表情をした。 [ア. 堅い イ. 硬い ウ. 固い]
③ () いつの間にか、サボテンの子株がふえた。 [ア. 殖えた イ. 増えた]
④ () 旅行のために円をドルにかえるつもりです。 [ア. 変える イ. 代える ウ. 換える]
⑤ () 忙しくて、自らをかえりみる精神的な余裕がない。 [ア. 省みる イ. 顧みる]
⑥ () ライオンはメスが獲物をとるそうだ。 [ア. 取る イ. 捕る ウ. 執る]

7-7 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () その曲がりかどを右に行けばすぐそこです。 [ア. 角 イ. 門]
② () 私の父は、会社の部長をつとめている。 [ア. 勤め イ. 務め ウ. 努め]
③ () 答案の誤りをなおすように先生から指示があった。 [ア. 直す イ. 治す]
④ () 彼は努力をして、成功をおさめた。 [ア. 収め イ. 納め ウ. 治め]
⑤ () 鏡を見て、身だしなみをととのえた。 [ア. 調えた イ. 整えた]
⑥ () 気持ちを言葉にあらわすことは難しい。 [ア. 表す イ. 現す ウ. 著す]

7-8 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () かげながら応援します。 [ア. 影 イ. 陰]
② () 旅行用の地図で行き先を指でさした。 [ア. 指し イ. 刺し ウ. 挿し]
③ () 医者は、検査のあたいを知らせた。 [ア. 価 イ. 値]
④ () 次の試合にはピッチャーをかえる。 [ア. 変える イ. 代える ウ. 替える]
⑤ () 中腰になったら、履いていたズボンがさけた。 [ア. 裂け イ. 避け]
⑥ () その件は、委員会にはかることにした。 [ア. 図る イ. 諮る ウ. 謀る]

7-9 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 寄付金は、建築費にあてることにした。 [ア. 充てる イ. 当てる]
② () 無関心な人が、半分をしめる。 [ア. 占める イ. 閉める ウ. 締める]
③ () 迷子になったので、道をたずねる。 [ア. 訪ねる イ. 尋ねる]
④ () 彼はあの山頂をきわめるだろう。 [ア. 究める イ. 窮める ウ. 極める]
⑤ () 暗くなり街のひがともった。 [ア. 灯 イ. 火]
⑥ () 口が悪いのがたまにきずだ。 [ア. 球 イ. 玉 ウ. 弾]

7-10 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 日記帳のページをくるたびに昔がよみがえる。 [ア. 来る イ. 繰る]
② () 兄が家業をつぐことになった。 [ア. 接ぐ イ. 次ぐ ウ. 継ぐ]
③ () ろうそくの火をつけるため、マッチ棒をする。 [ア. 刷る イ. 擦る]
④ () 服を作るための生地をたつ。 [ア. 絶つ イ. 断つ ウ. 裁つ]
⑤ () 風が急にふいてきた。 [ア. 吹いて イ. 噴いて]
⑥ () 作りかたを習うことにした。 [ア. 型 イ. 方 ウ. 形]

筆記8 対策問題

8-1 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 友人の意見に相槌を〔ア. 入れる イ. 打つ ウ. たたく〕。
- ② () 彼女は泡を〔ア. 吹いて イ. 食って ウ. 立てて〕逃げ出した。
- ③ () 彼女は機転が〔ア. 働く イ. 良い ウ. 利く〕人だ。
- ④ () 選手たちは威儀を〔ア. 正して イ. 律して ウ. 高めて〕授賞式に参加した。
- ⑤ () 瞳を〔ア. 凝ら イ. 一心に ウ. 集中〕して探し物をした。
- ⑥ () テニスの腕が〔ア. 鳴る イ. 振るう ウ. 上がる〕。

8-2 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () おぼれる者は、〔ア. 蓑 イ. 藁 ウ. 棒〕にもすがる。
- ② () 重大な会議で、額を〔ア. 付け イ. 抱え ウ. 集め〕て相談した。
- ③ () 安全が第一なのは、言わずと〔ア. 知れた イ. 思う ウ. 聞いた〕ことだ。
- ④ () 彼は入賞し、ひとり悦に〔ア. 入って イ. 感じて ウ. ひたって〕いる。
- ⑤ () わがチームは、腹を〔ア. 割って イ. くくって ウ. 探って〕最終戦を戦った。
- ⑥ () 彼女は合格できず、〔ア. 肩 イ. 胸 ウ. 肝〕を落とした。

8-3 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 両者の阿吽の〔ア. 気持ち イ. 呼吸 ウ. 息〕が合っている。
- ② () 会議が始まり、間髪を〔ア. 入れず イ. 待たず ウ. おいて〕彼は話し出した。
- ③ () 経営がやっと軌道に〔ア. 乗る イ. 入る ウ. 走る〕。
- ④ () 彼女は誰に対しても〔ア. 胸 イ. 肩 ウ. 腰〕が低い。
- ⑤ () もっとうまくなるように、腕を〔ア. 立てる イ. 付ける ウ. 磨く〕。
- ⑥ () 人の揚げ足を〔ア. 責める イ. 言う ウ. 取る〕。

8-4 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () それは、渡りに〔ア. 橋 イ. 馬 ウ. 船〕の申し出だ。
- ② () 膝を突き〔ア. 合わ イ. 出さ ウ. 寄せ〕せて談判した。
- ③ () 長い下宿生活に終止符を〔ア. 付ける イ. 打つ ウ. 刻む〕。
- ④ () 試合には、気合いを〔ア. かけ イ. 入れ ウ. 当て〕て取り組む。
- ⑤ () 彼から事情を聞こうと、水を〔ア. まわす イ. かける ウ. 向ける〕。
- ⑥ () この前の話には、まだ〔ア. 胸 イ. 腰 ウ. 脈〕がある。

8-5 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 不況の煽りを〔ア. 食う イ. もらう ウ. 捨う〕。
- ② () かえるの鳴き声が耳に〔ア. かかって イ. ついて ウ. 留まって〕眠れない。
- ③ () 忠告を肝に〔ア. 感じて イ. 誓って ウ. 銘じて〕忘れない。
- ④ () 長年の研究が日の〔ア. 光 イ. 目 ウ. 輝き〕を見る。
- ⑤ () 彼女とは〔ア. 馬が イ. 目が ウ. 口が〕合うので、いつも一緒に出かける。
- ⑥ () ここから先は、言わぬが〔ア. 花 イ. 良し ウ. 先〕だ。

8-6 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼は、脇目も〔ア. 見ず イ. 振らず ウ. そらさず〕に働いた。
- ② () 会社を再建するために身を〔ア. 苦 イ. 錆 ウ. 粉〕にして働いた。
- ③ () 計画を白紙に〔ア. 直す イ. 記す ウ. 戻す〕。
- ④ () 彼は苦勞をして角が〔ア. 取れた イ. 付いた ウ. 切れた〕。
- ⑤ () 彼女は西洋文学に造詣が〔ア. 高い イ. 長い ウ. 深い〕。
- ⑥ () 親の忠告を聞くのは耳が〔ア. つらい イ. 遠い ウ. 痛い〕。

8-7 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼は人を顎で〔ア. 指示する イ. させる ウ. つかう〕。
- ② () 困っている友人に〔ア. 肩 イ. 腕 ウ. 胸〕を貸す。
- ③ () 人生の岐路に〔ア. 登る イ. 立つ ウ. それる〕。
- ④ () 主導権をめぐる火花を〔ア. 散らす イ. 打つ ウ. 削る〕。
- ⑤ () ドアに頭をぶつけて、目から〔ア. 火 イ. 玉 ウ. 角〕が出る。
- ⑥ () 高を〔ア. 留めて イ. くくって ウ. 知って〕ひどい目にあった。

8-8 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼女は烈火の〔ア. ままに イ. ごとく ウ. 中で〕怒った。
- ② () すばらしい采配ぶりに舌を〔ア. 打つ イ. 巻く ウ. 鳴らす〕。
- ③ () 忙しくて、〔ア. 猿 イ. 犬 ウ. 猫〕の手も借りたい。
- ④ () 弱いほうの〔ア. 肩 イ. 形 ウ. 型〕を持つ。
- ⑤ () 表現のあいまいさに端を〔ア. 上げた イ. 発した ウ. 置いた〕誤解が生じた。
- ⑥ () 泥棒は〔ア. 泡 イ. 粟 ウ. 潮〕を食って逃げ出した。

8-9 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 新しい事業を始めるための足場を〔ア. 固める イ. 組む ウ. 掛ける〕。
- ② () 師匠は彼に目を〔ア. 引いている イ. かけている ウ. こらしている〕。
- ③ () 細かいところまで気を〔ア. 置く イ. 許す ウ. 配る〕。
- ④ () 危険は百も〔ア. 把握 イ. 承知 ウ. 合点〕の上で行う。
- ⑤ () 彼は海外に転勤し、所を〔ア. 得た イ. 就いた ウ. 持った〕。
- ⑥ () 昔と今の生活には、雲泥の〔ア. 差 イ. 違い ウ. 隔たり〕がある。

8-10 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。

- ① () 彼らはずらい練習に音を〔ア. はいた イ. 上げた ウ. 出した〕。
- ② () 我が社は、景気の波に〔ア. 洗われる イ. 乗る ウ. のまれる〕ことが大事だ。
- ③ () 真っ暗闇の中で、肝を〔ア. 座った イ. 失った ウ. 冷やした〕。
- ④ () 彼は昔は肩で〔ア. 風 イ. 息 ウ. 敵〕を切る勢いだった。
- ⑤ () 身に〔ア. 余る イ. 帯びる ウ. まとう〕お言葉をいただいた。
- ⑥ () 彼は骨董品に目が〔ア. 近い イ. 利く ウ. 届く〕。

- ⑧-11 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。
- ① () 山積みする課題に頭を〔ア. 垂れる イ. 抱える ウ. 押さえる〕。
 - ② () 私はその本によって目を〔ア. 離された イ. 配られた ウ. 開かれた〕。
 - ③ () 拒み続けて、強情を〔ア. 張る イ. 通す ウ. 利かせる〕。
 - ④ () 新入社員の彼は、筆が〔ア. のる イ. すべる ウ. 立つ〕。
 - ⑤ () 今こそ社内が一体になって〔ア. 気を イ. 襟を ウ. 緒を〕正すべきだ。
 - ⑥ () 余計なことを言うと、火に油を〔ア. かける イ. つける ウ. 注ぐ〕結果になる。
- ⑧-12 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。
- ① () さすがに先生は、読みが〔ア. きれる イ. 深い ウ. 立つ〕。
 - ② () うわさなんか、歯牙にも〔ア. かけない イ. ならない ウ. とめない〕。
 - ③ () 新人の成長を、長い〔ア. 心 イ. 息 ウ. 目〕で見る。
 - ④ () 二人で話しても、埒が〔ア. 明かない イ. 終わらない ウ. 付かない〕。
 - ⑤ () 私たちは、固唾を〔ア. 呑んで イ. 咬んで ウ. 凝らして〕見守った。
 - ⑥ () あの人は話に水を〔ア. 打つ イ. 差す ウ. 得る〕。
- ⑧-13 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。
- ① () 悔やんでも、後の〔ア. 祭り イ. 政 ウ. 業〕だ。
 - ② () ペアの演技で、二人の呼吸が〔ア. 弾む イ. 合う ウ. 呑む〕。
 - ③ () 授業中に先生は、立て板に〔ア. 雨 イ. 釘 ウ. 水〕のように話をした。
 - ④ () 冗談を言って、お茶を〔ア. 炒る イ. 濁す ウ. 混ぜる〕。
 - ⑤ () 丹精を〔ア. こめ イ. さし ウ. 押し〕て、料理を作った。
 - ⑥ () 芝居はいよいよ〔ア. 局面 イ. 場面 ウ. 山場〕を迎える。
- ⑧-14 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。
- ① () 彼女の態度には腑に〔ア. いかない イ. 落ちない ウ. かけない〕ところがある。
 - ② () これは時を〔ア. 得た イ. 稼ぐ ウ. 待つ〕新商品だ。
 - ③ () 決勝戦の火ぶたを〔ア. 切る イ. 落とす ウ. 開く〕。
 - ④ () 彼女のマナーの悪さに眉を〔ア. ゆがめる イ. ひそめる ウ. 曲げる〕。
 - ⑤ () どうしたら良いのか思案に〔ア. 暮れる イ. めぐる ウ. 落ちる〕。
 - ⑥ () 世の中に出て荒波に〔ア. おかれる イ. 揺れる ウ. もまれる〕。
- ⑧-15 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、その記号を（ ）の中に記入しなさい。
- ① () 一日中、足を〔ア. 空に イ. 棒に ウ. 重く〕して探した。
 - ② () 腰を〔ア. 据えて イ. 掛けて ウ. 上げて〕勉強に取り組んだ。
 - ③ () この本は専門書なので、読むのに骨が〔ア. しみる イ. かかる ウ. 折れる〕。
 - ④ () 彼女は勉強以外のことには〔ア. 目 イ. 鼻 ウ. 気〕もくれない。
 - ⑤ () 彼は料理の、壺を〔ア. 付けて イ. 心得 ウ. 持つ〕ている。
 - ⑥ () 兄弟げんかでは、いつも兄の私が割を〔ア. 当てる イ. 振る ウ. 食う〕。

7 筆記総合問題

第1回 筆記総合問題 (制限時間15分)

解答は別冊の解答用紙に記入すること

1 次の各用語に対して、最も適切な説明文を解答群の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|--------------|---------|------------|
| ① マルチシート | ② ツールバー | ③ 静止画像ファイル |
| ④ J I S 第2水準 | ⑤ 感熱紙 | ⑥ ルビ |
| ⑦ 単語登録 | ⑧ トナー | |

【解答群】

- ア. ユーザが各自の使い勝手をよくするため、新たな単語を辞書ファイルに記憶すること。
イ. ツールボタンを機能別にまとめた部分のこと。
ウ. J I Sで定められた漢字の規格で、3390字が部首別に並んでいる。
エ. レーザプリンタやコピー機などで使う粉末状のインクのこと。
オ. 上下に隣接する行間の距離のこと。その長さは文字の中心を基準としている。
カ. 熱を感じると黒く変色する印刷用紙のこと。電車の切符、レシート、拡大印刷機などで使われる。
キ. ディスプレイの大きさのこと。その大きさは、画面の対角線で測られる。単位としてインチを用いる。
ク. 漢字などに付けるふりがなのこと。
ケ. カーソルの右の文字を消去するショートカットキーのこと。
コ. 一つの文書やウィンドウで、複数の文書(シート)を同時に取り扱う機能のこと。
サ. 文字ピッチを均等にするフォントのこと。
シ. 写真やイラストなどのデータを保存するファイルのこと。

2 次の各文の下線部について、正しい場合は○を、誤っている場合は最も適切な用語を解答群の中から選び、記号で答えなさい。

- ① 文字や画像のきめの細かさを意味する尺度のことを解像度という。
② 新聞紙などから作った再生パルプを混入してある用紙のことをPPC用紙という。
③ 上下に隣接する行間の距離のことで、その長さは文字の中心を基準としているものをツールバーという。
④ 指定した範囲内に色や模様を付けることを透かしという。
⑤ 範囲指定した部分を強調するため、その範囲に網目模様を掛ける機能のことを感熱紙という。
⑥ 必要なときにすぐに使えるように、一定の基準により文書を分類して整理し、保管することをdpiという。
⑦ 余白も含めた、文字が入力される用紙全体に設定される色や画像、またはその領域のことをテキストボックスという。
⑧ パソコンの画面や印刷で、文字を構成する一つひとつの点のことをタブという。

【解答群】

- | | | |
|----------|----------|--------------|
| ア. 塗りつぶし | イ. 網掛け | ウ. ファイリング |
| エ. ドット | オ. 文字ピッチ | カ. プルダウンメニュー |
| キ. 行間隔 | ク. 言語バー | ケ. 画面サイズ |
| コ. 再生紙 | サ. 背景 | シ. 行ピッチ |

3 次の各文の〔 〕の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ① 自社の行事に顧客や取引先などを招くときに作成する文書を〔ア. 案内状 イ. 招待状 ウ. 添え状〕という。
- ② 社内文書に分類されないものは、〔ア. 願い イ. 通達 ウ. 礼状〕である。
- ③ 記号 ※ は、〔ア. 一般記号 イ. 括弧記号 ウ. 記述記号〕である。
- ④ 学術記号に分類されないのは、〔ア. = イ. < ウ. 【 〕である。
- ⑤ 「貼り付け」の操作を実行するショートカットキーは、Ctrl + 〔ア. Z イ. V ウ. X 〕である。
- ⑥ 罫線の実線とは、〔ア. イ. ウ. 〕である。
- ⑦ プレゼンを効率的、効果的に行うために使うアプリケーションのことを〔ア. プレゼンテーションソフト イ. プリンタドライバ ウ. スクリーン〕という。
- ⑧ 〔ア. インクジェットプリンタ イ. タイトル ウ. 配布資料〕とは、スライドを印刷し、記入欄を設けるなどして綴じて配布する印刷物のことである。

4 次の各問いの答えとして、最も適切なものをそれぞれのア～ウの中から選び、記号で答えなさい。

- ① 文字（フォント）の大きさやアンダーラインなどは表示できない「メモ帳」によって作成したファイル形式はどれか。
ア. 標題.png イ. 標題.gif ウ. 標題.txt
- ② 「ビジネス文書実務検定試験2級合格」で使われている文字修飾はどれか。
ア. 点線の下線 イ. 一重下線 ウ. 波線の下線
- ③ 下の例文の作成で利用した機能はどれか。

医療・ヘルスケア分野でも、医療ガス供給や、住宅医療などに重要な役割を果たしている。リニアモーターカーや燃料電池自動車など、近未来の新技术を支え

る分野でも産業ガスが活用されており、時代や社会環境の変化に応じて、多様なフィールドで活躍している。

- ア. 均等割付け イ. バックアップ ウ. 段組み
- ④ 「高校生全国大会」を「全国高校生大会」と校正したい場合の校正記号はどれか。
ア. 高校生[□]全国大会 イ. 高校生_□全国大会 ウ. 高校生全国大会
- ⑤ 下の校正記号の指示の意味はどれか。

メモリスティック4,379円

- ア. 空け イ. 詰め ウ. 移動
- ⑥ コード表から「JIS X 0208」や「0x7f」のように入力して、漢字や記号などが入力される機能はどれか。
ア. 手書き入力 イ. コード入力 ウ. 予測入力

5 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで答えなさい。

- ① 今回の会議は、面識のない人が大勢いる。
- ② 国の将来は若者の双肩にかかっている。
- ③ 職場の先輩方は、新入社員の私にいろいろと配慮してくれた。
- ④ 虫が入らないように窓に網戸を取り付けた。
- ⑤ パソコンの画面が見やすいように椅子の高さを調整した。
- ⑥ 株価が下落した。

6 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、記号で答えなさい。

- ① あの言葉は、彼の常覚句だ。 [ア. 当 イ. 等 ウ. 套]
- ② その試験に合格するには、並大低な努力ではない。 [ア. 抵 イ. 定]
- ③ 盆踊りは夏の風物土だ。 [ア. 史 イ. 詩 ウ. 姿]
- ④ 小遣いを使い果たして無一門になった。 [ア. 文 イ. 紋]

7 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、記号で答えなさい。

- ① お客様から工事をうける。 [ア. 請ける イ. 受ける]
- ② 商売を始めるには、人手がいる。 [ア. 要る イ. 入る ウ. 居る]
- ③ 小枝をおり、焚き火の準備をした。 [ア. 折り イ. 織り]
- ④ 今回の試合は三時間をこす大接戦だ。 [ア. 越す イ. 肥す ウ. 超す]
- ⑤ そろそろ彼もあぶらがのる年頃だ。 [ア. 油 イ. 脂]
- ⑥ 着替えのために服のボタンをとめる。 [ア. 止める イ. 泊める ウ. 留める]

8 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ① 先の経済危機は、今なお〔ア. ^ゆ断 イ. ^よ断〕を許さない状況だ。
- ② 道に迷い、途方〔ア. 困る イ. 暮れる〕に〔ア. 困る イ. 暮れる〕。
- ③ 彼女は、親の権威を笠〔ア. 着る イ. まとう ウ. 引く〕に〔ア. 着る イ. まとう ウ. 引く〕。
- ④ 雀の〔ア. 涙 イ. 子 ウ. 口〕ほどの補助金だった。

① 次の各文は何について説明したものか、最も適切な用語を解答群の中から選び、記号で答えなさい。

- ① ワードプロソフトにおいては、余白や行頭・行末などを変更するため、画面の上部と左側に用意された目盛のこと。
- ② 16進数で表された符号(JISコード)や区点番号により、漢字や記号を入力する方法のこと。
- ③ 全角文字と英数の半角文字との文字間隔のこと。
- ④ 表示する文書(シート)を切り替えるときにクリックする部分のこと。
- ⑤ 写真やイラストなどのデータを保存するファイルのこと。
- ⑥ 1行の中で、左右に隣り合う文字間の距離のこと。その長さは、文字の中心を基準としている。
- ⑦ 8.5インチ×11インチ = 215.9mm×279.4mmの用紙サイズのこと、アメリカ国内のローカル基準である。
- ⑧ 文書のデータを保存した、主にワードプロソフトで扱うファイルのこと。

【解答群】

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| ア. 静止画像ファイル | イ. 定型句登録 | ウ. 和欧文字間隔 |
| エ. ワークシートタブ | オ. 文書ファイル | カ. 文字ピッチ |
| キ. dpi | ク. コード入力 | ケ. ルビ |
| コ. レターサイズ | サ. 画面サイズ | シ. ルーラー |

② 次の各文の下線部について、正しい場合は○を、誤っている場合は最も適切な用語を解答群の中から選び、記号で答えなさい。

- ① 過去の入力状況を記憶しておき、新しい入力の際に予想される変換候補を優先して表示することで、入力の打数や選択の手間を省力し支援する変換方式のことを手書き入力という。
- ② ワードプロソフトなどで、あらかじめ設定した位置に文字やカーソルを移動させる機能のことをツールボタンという。
- ③ プリンタに用紙を一枚ずつ給紙する装置のことを袋とじ印刷という。
- ④ データの破損や紛失などに備え、別の記憶装置や記憶媒体にまったく同じデータを保存することをオブジェクトという。
- ⑤ 取扱注意や秘などの文字を入れ、注意を喚起するなどのために使うことが多いもののことを塗りつぶしという。
- ⑥ ファイル名の次に、ピリオドに続けて指定する文字や記号のことをJIS第1水準という。
- ⑦ 新聞や辞書などのように、同一ページ内で文字列を複数段に構成する機能のことを段組みという。
- ⑧ 1行の中で、左右に隣り合う文字間の距離のことで、その長さは、文字の外辺を基準としたものを文字ピッチという。

【解答群】

- | | | |
|----------|------------|-----------|
| ア. マージン | イ. 透かし | ウ. バックアップ |
| エ. PPC用紙 | オ. 拡張子 | カ. タブ |
| キ. 文字間隔 | ク. 予測入力 | ケ. アイコン |
| コ. ドラッグ | サ. シートフィーダ | シ. 画面サイズ |

3 次の各文の〔 〕の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ① 用件を説明し、遂行するようにお願いするための文書を〔ア. 回覧 イ. 規定・規程 ウ. 依頼状〕という。
- ② 取引文書に分類されないものは、〔ア. 連絡文書 イ. 仕様書 ウ. 確認書〕である。
- ③ 記号！は、〔ア. 学術記号 イ. 記述記号 ウ. 一般記号〕である。
- ④ 一般記号に分類されないのは、〔ア. ☆ イ. 〒 ウ. ? 〕である。
- ⑤ 「印刷」の操作を実行するショートカットキーは、〔Ctrl〕+〔ア. C イ. P ウ. X 〕である。
- ⑥ 〔Ctrl〕+〔Z〕は、〔ア. 元に戻す イ. コピー ウ. 切り取り〕の操作を実行するショートカットキーである。
- ⑦ 〔ア. フォーマット イ. レーザポインタ ウ. プロジェクタ〕とは、レーザ光線によって、スクリーンに投影した内容を指し示す指示装置のことをいう。
- ⑧ スライド上に表示するオブジェクトやテキストの配置情報のことを〔ア. レイアウト イ. サブタイトル ウ. タイトル〕という。

4 次の文書についての各問いの答えとして、最も適切なものをそれぞれのア～ウの中から選び、記号で答えなさい。

B
A 2月の求人情報

次の職種を希望される方は、当紹介所にご連絡ください。社名や住所など
 をお知らせしてから、エントリーしていただきます。

C
高校生用求人

#	職 種 内 容	勤務場所	給与（日給・月給）
1	TV・インターネット工事	JR秋葉原駅周辺	147,000円
2	PC入力業務スタッフ		128,000円
3	コンビニ店員、販売・レジ	JR東京駅構内	

* 1は「要着免」、2と3はパソコン操作ができること。

E
F
企業広告で運営する職業紹介「虹彩」

- ① Aに挿入した文字の大きさはどれか。
 ア. オブジェクト イ. 24ポイント ウ. 横倍角
- ② Bの校正記号の指示の意味はどれか。
 ア. 入れ替え イ. 誤字訂正 ウ. 移動
- ③ Cを「高校生用求人」と校正したい場合の校正記号はどれか。
 ア. 高校生用求人 イ. 高校生用求人 ウ. 高校生用求人
- ④ Dに設定されている書式はどれか。
 ア. 右寄せ イ. 均等割付け ウ. 禁則処理
- ⑤ Eに設定されている文字修飾はどれか。
 ア. 点線の下線 イ. 破線の下線 ウ. 波線の下線
- ⑥ Fに使用されている機能はどれか。
 ア. ルビ イ. 予測入力 ウ. 手書き入力

⑤ 次の各文の下線部の読みを、ひらがなで答えなさい。

- ① 茶葉をひいて粉にした茶のことを抹茶という。
- ② ビタミンCが豊富な苺だが、ジャムにしてもおいしい。
- ③ 腎臓は、体内に生じた不要物質を尿として体外に排出する。
- ④ 友人に航空郵便で手紙を出した。
- ⑤ 鰹は、日本では古くから刺身やたたきなどで食用にされている。
- ⑥ 古い建物なので、部屋の天井が低い。

⑥ 次の各文の下線部は、三字熟語の一部として誤っている。最も適切なものを〔 〕の中から選び、記号で答えなさい。

- ① 端境気で在庫が品薄になる。 [ア. 期 イ. 機]
- ② 口は部調法だが腕は確かだ。 [ア. 分 イ. 武 ウ. 不]
- ③ 彼は師匠の愛弟氏だ。 [ア. 仕 イ. 子]
- ④ 彼は一目参に逃げ出した。 [ア. 散 イ. 惨 ウ. 産]

⑦ 次の各文の下線部に漢字を用いたものとして、最も適切なものを〔 〕の中から選び、記号で答えなさい。

- ① 借りた品物は、必ず元の持ち主にかえすこと。 [ア. 返す イ. 帰す]
- ② 帰り道で、にわか雨にあった。 [ア. 会った イ. 合った ウ. 遭った]
- ③ 彼女の趣味は和歌をよむことだ。 [ア. 読む イ. 詠む]
- ④ 公園の芝をかるのは大変だ。 [ア. 駆る イ. 狩る ウ. 刈る]
- ⑤ 寝ている子が、あまりの騒音で目をさました。 [ア. 覚ました イ. 冷ました]
- ⑥ 朝日がのぼり、明るくなってきた。 [ア. 昇り イ. 上り ウ. 登り]

⑧ 次の各文の〔 〕の中から、ことわざ・慣用句の一部として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ① 先取点をものにして、チームの意気が [ア. 揚がる イ. 投じる ウ. 付く]。
- ② 喜んでもらうために、もてなしに趣向を [ア. 変える イ. 凝らす]。
- ③ あまりにも難しい問題なので、歯が [ア. 折れる イ. 痛い ウ. 立たない]。
- ④ この件に関しては、彼の右に [ア. 勝る イ. 出る] 者はいない。